

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共に歩み続ける」を理念に掲げ、地域の中での当たり前暮らしが出来よう努めている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設丸1年経った時点で、職員全員で理念を作り上げた為、常に理念が職員の頭にあり、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。 姉小路全体の職員会議で基本方針に添って到達点を確認したり、グループホームで上半期、下半期に分けて理念に添ってまとめの会議を行い、実践の評価を行っている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者に書いていただいた、理念、基本方針を玄関、食堂に明記掲げている。ご家族には入居契約時、入居後のケース会議の時に「共に分かちあいながら」暮らし理念を熱く語っている。地域の方達にも日々の暮らしを通して理解して頂ける様努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの商店会に昼・夕の食事の買物、1年を通してさせて頂いているお地藏さんの掃除、配食の手伝いを通して、ご近所の方と出会う事が多く、挨拶など、お互いに気楽に声を掛け合える関係が生れている。友人や近隣の方の訪問も多く、特に配食先の方に声を掛け合い気楽に行き来出来るようになってきている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に参加しており、総会(お千度さん・お施餓鬼)にも入居者と共に出席している。学区、地域、商店街の行事には積極的に参加している。特に、盛大に開かれる三条商店街の七夕夜市に入居者手作りの作品を出店し、入居者が売り子をされたり、している。出店場所も日頃懇意にさせて頂いているお店のご主人の配慮を頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティア、施設見学、入居相談、研修など受け入れをしている。姉小路として地域の窓口相談、1階サロンのイベントを通して地域に開放している。 GHでショートステイの認可があり、双方の状況に合わせ利用可能になれば、積極的に受け入れ役立ちたいと考えている。 配食サービスを手伝い相手の方と親交を深め行き来を行	○	配食、お地藏さんの掃除を継続し、これからも自然な形で地域に役立てるよう取り組んでいく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で自己評価を行い、会際持ってまとめ、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーから得た、意見、情報を職員会議で伝えサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センター職員から、市民研修、イベント等の情報を得る機会があるが参加には至っていない。	○	情報収集を図り、自分たちに出来る範囲で参加していくよう取り組んでいく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、3名の方に成年後見が付かれ、1名の方は地域福祉権利擁護事業を利用されている。今後も、関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用出来るよう支援していく。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が生じない為にも、認知症の正しい理解を持ち、職員会議で学習し、チームとして働き、何でも話し合える職員集団になっている。虐待はあってはならないことなので、職員全員で注意を払っている。法人で「高齢者虐待について」の職員学習会があり、		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、在宅時のケアマネージャーと職員二人で対応している。利用者、家族の不安、疑問点を尋ね、十分に説明を行い、理解、納得をして頂いた上で契約を行なっている。解約時も同様に十分説明を行い不安の軽減に努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の暮らしの中での会話を大切にし、言葉や様子からしっかり思いを受け止め、聞いた職員一人だけのものせず、全員の職員に伝え運営に反映させるよう努めている。入居者個人に関しては、3ヶ月に一度、ケアプラン見直し時に、利用者の意見、要望を確認しケアに反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人、姉小路独自で機関誌の発行を行い、利用者の暮らしぶりをお知らせしている。少しでも変化があれば、健康状態についてご家族に連絡をし、ご家族と共に支えている意識がうまれている。面会時には、主治医とご家族とのふれあいノートを見て頂き、日頃の健康状態を把握していただいている。3ヶ月に一回金銭管理報告	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年3回、家族懇談会を開催し、ご意見、不満、苦情を伝えて頂ける機会を設けている。又、昨年より運営推進会議を開催し、ご家族も2名参加しておられ、意見の言い易い雰囲気もあって、日頃のちょっとした疑問、要望が出て、職員にとってもいい会議になっている。会議報告を職員会議に出し、改善点を話し合い運営にいかしている。 苦情・要望受付	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な会話、毎月の職員会議で職員の意見、提案を聞き、より具体化出来るものについては、早めの対応をとっている。 年に2回、ヒヤリングを行い、より個別の思いを聞き取るよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	2ユニットであることの利点を生かし、日中、夜間共に、相互協力体制を取ることが出来ている。行事、入居者緊急時、職員体調不良時に話し合い勤務の調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族懇談会で説明し、同意を得ている。異動や離職を必要以上抑える配慮と、退職者が出た時には、その前後のフォローをしっかりと行う事を心がけている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内での段階に応じた研修、外部研修に積極的に参加している。他のグループホームとの交換研修、自分立てた研修計画に即し、学びたい研修、資格取得等、研修の機会を支援している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>全国認知症グループホーム協会、京都府認知症グループ教会に加盟し、定例会に参加。勉強会を通じ、相互の資質向上に役立てている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年に2回、管理職によりヒヤリングの場を設けている。姉小路での定期的な親睦会や、部門会議の後、食事に行く等、自然に話し合える機会を持っている。 有給、リフレッシュ休暇の有効活用。休憩の取り方を工夫している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>日常的に把握していると共に、必要時には、個別のヒヤリングを実施している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>在宅の担当ケアマネと職員二名で面接を行ない、施設独自の情報収集シートを活用し、ご本人の思いをより細やかに聴きとめる努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>項目23と同様に、ご家族の困りごと、不安、求められている事を傾聴し、受け止める努力をしている。</p>	

京都府:グループホーム姉小路 ユニット名・いちよう

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	広い視野で考え、利用者に最も適した援助が行なえる様、努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が見学され納得された上で入居して頂いているが、利用はどうしてもいきなりの開始となる。暮らしながら他の利用者、グループホームの雰囲気に徐々に馴染んで頂けるよう、職員、ご家族が共に相談したり連携し、安心した暮らしの構築に努めている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	基本理念の中にあるように、「共に食べ、働き、眠り、笑い、楽しみ、泣き、分かち合いながら」暮らしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、ご本人とご家族で過ごされる時間を大切にして頂いている。又、行事に参加して頂ける様、早い目に行事案内を郵送し、可能な限りの参加を呼びかけ、共に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居されることで本人とご家族の関係が希薄にならないよう支援している。お話頂ける範囲で聴き取りをさせて頂き、大切にしてこられたこれまでの関係を理解した上で、今後も良い関係が保って頂けるような働きかけも行なっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域にお住まいの友人に出会いに行かれたり、馴染みの美容院や専門病院等に通われ、築いてこられた関係を保って貰える様支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	基本的に馴染みの関係の中で利用者同士で助け合っている場面が多く見られる。コミュニケーションがやや困難な場合にも、職員がさり気なく間に入る事で、関係を良好に保てるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院により戻って来れない方で御主人が高齢であった事、姉小路との関係を持ち続けたいと言う強い希望があったケースで、退居後も紫雲させて頂いたケースがある。家族へのホローを忘れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議を一緒にさせて頂き、ご本人、ご家族から暮らし方の意向をお聞きし、ケアプランを作成している。時には、日々接している職員が、その方の思いを勘案し意向の把握を行なう事もある。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。	○	暮らしの情報(家族の悩み、要望) 心身の情報(私のやりたいことや願い・要望)、利用者の嬉しい事・楽しい事、介護への願いや要望、苦痛や悲しみ等を記録にとどめ、職員が入れ替わっても、自分が自分らしくあり続ける暮らしを構築する基を積み重ねていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	姉小路の基本方針として、一人一人のペースを尊重し、ゆっくり一緒に楽しく暮らすことをあげている。自分らしい生活を共に築いていくためにも、現状を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの意見をもとに、部門会議でチームの意見を出し合い、3ヶ月に1度、ご本人、ご家族と共にサービス担当者会議を開催し、意向を反映した計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回モニタリングを実施しており、また必要時、緊急時には適宜には、適宜計画書を見直し、サービス担当者会議を実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアプランを頭に入れ、ケアプランに連動した記録に努めている。毎日の日誌への記録を全員で行い、細やかな情報を職員間で収集している。毎月1回担当が個々の日誌に目を通し、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	1階のサロンを利用や2階のデイサービスの行事参加。また5階の高齢者住宅に入居されている方との交流等、施設全体を活かした支援を行っている。また家族の希望があった時は、泊まって帰られる事もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近隣の商店には日常的に買い物をする事で理解が深まっている。ボランティアの数は少ないが、入居者の良い刺激となって訪問を喜ばれている。(犬を連れてきて下さる方。話し相手、お化粧品、ファッションセラピー等)		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居されても、それまで通われていたデイケアに定期で通われていたが、機能低下の為、中断したケースがある。本人の必要性に応じて、日中、姉小路のデイサービスに短時間過ごす事で事も時々ある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーとして、情報交換等交換し、権利擁護等の長期的なケアマネジメントの相談を受ける機会となっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間オンコールのかかりつけ医と随時連絡を取り合い、適切な医療が受けられるよう支援している。また2週間に1度は往診を行ってもらっている。		

京都府：グループホーム姉小路 ユニット名・いちよう

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>入居者の状態に応じて精神科を受診。受診時に、入居者の身体的、精雨段神的な様子を記録して情報を伝え、治療の参考資料にしている。入居者の状態の変化を見て、いつでも相談できる関係ができています。眼科、歯科の先生も認知症の理解があり、特別に予約を入れて下さっている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>24時間オンコールで相談できる看護婦を確保している。また同法人の看護婦と連携し、特変時のバイタルチェックや予防接種等の協力を依頼している。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入居者が入院された場合、お見舞いに行き、安心される声かけをしたり、洗濯等の援助を行っている。入院し安定された時点で、早期に家族、主治医も含めカンファレンスを行い、早期退院に向けて支援している。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時、サービス担当者会議、入居者の状態の変化時等に、ターミナルの確認を行い記録に残している。「見取りの指針」を作成し、キーパーソンと契約を交わしている。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>ご家族、かかりつけ医、職員がカンファレンスを行い、「できる事、できない事」を明確にした上で、可能な限りチームとして支援していけるよう取り組んでいる。またターミナルの意向は確認しているが、揺れ動かれるご家族の精神面でのフォローにも努めている。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>移り住む事のダメージをしっかりと受け止め、本人、ご家族の意向に添っていけるよう努力している。やむなく退去に至った場合、医療機関、家族と連携を密にとりながら、できる限りの対応を行っていくよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけ、対応については、日常的に相互指摘しあいながら意識して行っている。また個人情報についての書類は、シュレッダーを利用し、取り扱いを厳重に注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に本人にきちんと説明を行う姿勢を大切にしている。食事メニューや外出の希望等をお聞きし、個々の意思決定を大切にしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	姉小路の運営方針に掲げている重点項目で、常に心して取り組んでいる。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服は、自分らしい身だしなみを整えられる方もおられる。又、自分で選べない方には、一緒に衣類を選んで着て頂いている。理美容は、入居前から行かれている店や、入居後馴染まれたお店に、希望される日に行けるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる力を発揮して頂き、共に作り、盛り付け、後片付け等の一連の作業を継続して行なえるよう支援している。食べる事を楽しみにされているので、お誕生日にはその方のお好きな物を聞いて用意したり、行事にはチラシを見てメニューを決めたりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お風呂上りにビールやおつまみを持って自室へ戻られ、テレビを見ながら飲むのを楽しみにされていた方がおられる。今は、体調が良くなく所望されなくなっている。食事メニューに合わせてビールをお出ししたり、おやつを一緒に買いに行ったり選んで頂く事もある。	

京都府:グループホーム姉小路 ユニット名・いちよう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	お二人の方は排泄チェックひ表を作成し、排泄リズムを掴み、PTトイレ誘導し、パットへの漏れを少なくしている。他の方も、パターンを把握出来ている為、さり気なくトイレ誘導することで失禁を防げている。しかし、常に尿漏れされている方もおられ、トイレの都度清拭、パット交換させて頂いている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間、回数の制限を設けることなく、入居者の希望時間、ペースで入浴されている。但し、最近では、入居者の重度化も見られ、夕食後の入浴は行なえていない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	無理に型にはめず状況に応じた対応をとる等、生活習慣を大切にしている。又、安眠に繋がるように、日中の活動を増やし、生活リズムを意識して作るよう努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、調理、手作りカレンダー、洗濯物干し・畳み、裁縫等、一人一人の得意なことを理解しており、出来る事は進んでやっていただける場面作りをしている。又、配食サービス、お地藏さんの掃除、花の水遣りなどを通して、やりがいを持っていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを持たれている方、ホームで預り買い物の都度お渡しし、自分のお金で自分で買い物して貰う等、買い物の楽しみを継続出来るよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調、気分に応じて、外出や屋上での外気浴等、1日一回以上、戸外に出掛けられている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	姉小路の行事としての外出も、日頃の会話の中から行き先を決めたり、職員の提案により行なえている。多くのご家族に参加して頂ける様、早い目に行事計画の案内を郵送し、お誘いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望された時電話して頂いたり、送り物が届いた時に、お礼の電話を入れられたり、年賀状や書中見舞い等の手紙のやり取りをして頂いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を設けず、着やすい雰囲気作りに努め、家族、知人、友人と過ごしやすように配慮している。頻回に面会に来られる家族もおられ、他の入居者と居心地良く交流されている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉による拘束や、様々な拘束について、学習する機会を設けている。身体拘束はしないという事を全ての職員が認識している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	見守る事で事故を防ぐ意思統一をしている。鍵については、職員間で常に議論し、ケアの向上に努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ずフロアに職員がいるようにし、所在や様子を把握できるよう、職員がお互いに声を掛けるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の認知症のレベルを正しく理解し、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。包丁等の使用、裁縫の針、個々に持たれている洗面の石鹸等、場合により預からせて頂く事もある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起こらないようにすると共に、事故が起きた場合、事故報告等を通して、再発防止について話し合い、今後に活かすよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、内容を熟知している。姉小路で消防署の救急救命の講習会を実施したり、入居者のレベルに合わせて想定できる出来事について話し合い、実習して、応急手当が出せるようにしている。かかりつけ医や他部門との連携も行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施しており、利用者にも可能な限り参加して貰い、防災意識を高めている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々に起こりうるリスクについて、ご家族に説明、相談している。リスクを恐れず、安全に最大限配慮しながら、抑圧感のない暮らしを築いていく配慮をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変に気付いた時には、一人で判断せず、複数での確認徹底している。かかりつけ医に電話し、指示を受け、速やかな対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日付、時間毎に薬をセットをす事で、職員皆が、薬に対する知識アップに努めている。又、服薬前の誤薬防止確認、及び服薬時の確認等、一つ一つについて、薬の大切さを確認した上で援助を行っている。薬局より服薬管理指導を受けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日のヨーグルトや水分摂取、又、身体を動かす等の働きかけを行えている。又、日常生活表に排泄チェックを記入し、便秘に注意し、かかりつけ医と下剤の量等の見直しを行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕の歯磨きは、習慣になって実施されている。	○	食事、おやつ之都度、口腔清潔の支援を行っている人がおられるが、他の方は、昼食時の口腔ケアの支援が出来ていないので、更に個別検討していく。

京都府:グループホーム姉小路 ユニット名・いちょう

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医に提出している日常生活表にある食事の欄のチェックを行い、一人一人の摂取量を把握している。食欲がない方には、ゼリーやアイスクリーム等、好きな物を提供し、水分量確保に努めている。又、食事量や栄養バランスについても、情報交換しながら、トータルで考え支援している。場合によっては、食事が入らない時、点滴して貰われる方も		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに添って対応している。研修に行き、受講した職員が職員会議で発表。予防、対応を全職員が共有している。手洗い、うがいの励行、逆性石鹼の使用等、発生させない予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、消毒・衛生管理を実施し、安全な食事の提供に努めている。布巾、まな板、包丁は、毎日ハイターに浸け消毒している。冷蔵庫の中もこまめに整理している。洗濯機は、清潔・不潔の使い分けをしている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	姉小路の玄関にグループホーム、デイサービスの利用者手作りの暖簾を掲げる事で、存在が分かりやすくなった。掲示板の活用、1階サロンで、週2回の喫茶「いそしぎ」の他、貸し会場として使用され。近隣の方の出入りが多くなっている。グループホーム玄関に季節の花や飾りを置くなど、家庭的な雰囲気作りを大切にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で日常的に使用している物品を用いている為、特に違和感は見られない。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部のスペースは少ないが、廊下に籐椅子やソファ、畳の椅子を置く事で、思い思いに過ごされね居場所が確保できている。テラス前の椅子は、日当たりもよく、一人で日向ぼっこをされたり、音楽を楽しまれる方も多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン以外は、全て持ち込みとなっており、馴染みの物に囲まれたそれぞれの個性豊かな居室となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除時には、必ず窓を開け広げ寒気している。それ以外にも、適宜寒気を行なっている。温度調節は、入居者に確認しその都度対応。冬場は、加湿器を使用し、換気、空調に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手すりを設置したり、風呂場内に福祉用具を設置したりと工夫している。又、三輪歩行者、杖、車椅子を使用して頂き、一人一人の身体機能を活かした生活を支援している。	○	身体機能低下により、更にハード面の工夫が必要になってくる。一人一人のレベルをしっかり見極め、出来るだけ自立した生活が出来るよう工夫していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室内の衣類を整理できるよう、プレートをつけたり、トイレの場所が解からなくなられる方おられるので、手作りの表札をつけている。あまり効果なく、様子を見て誘導する事で混乱が防げている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上に物干し、花壇があり家庭菜園も行なえる。花壇の水撒きや花を切り、フロアに飾るなどの日常的に活用している。屋上でお茶をしたり、気分転換に上がる等、憩いの場となっている。 テラスでも花や野菜を植え、水遣り、手入れをされ収穫を楽しまれている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ①理念を職員全体で考え掲げているので、常に理念が頭にあり、理念にそって、統一したケアの実践に努力していること。
- ②街中にあり、利便性を生かし、出掛ける機会が多い事。
- ③開設当初から、変わることなく、ご家族、友人の面会が多い事。
- ④医療との連携が図れ、24時間オンコールで看護師に相談できる事。その為、入居者の方やご家族の方の希望にそったターミナルケアが実践可能である事。
- ⑤商店街の行事や地蔵盆、お千度さんなどに参加するなど、地域交流が図れている事。
- ⑥屋上に花壇や菜園があり、入居者の方と一緒に育てている事。また屋上が入居者の方の気分転換、憩いの場所にもなっている事。